

○東珠実 渥美美晴¹ 古寺浩² 鈴木真由子³ 吉本敏子⁴ 田崎裕美⁵
村尾勇之⁶ (1: 家政学、2: アルバイト、3: 主婦、4: 主婦、5: 主婦、6: 家政学)

【目的】本研究の目的は、アメリカ家政学会誌の分析を通して、その研究動向を明らかにし、家政学の本質を追求しようとするところにある。これまでに、研究論文の内容構成に基づく分析をすべての領域について実施し、各領域における研究関心の推移をとらえるとともに、前報では学会の会則にみられる目的の変遷について概観した。本報では、これまでの成果を集約すべく、家政学論に関する諸説に注目し、家政学の本質にかかわる概念の歴史的推移を明らかにし、家政学のあるべき方向性について検討することを意図した。

【方法】1909～1989年の JOURNAL OF HOME ECONOMICS (724冊) 及び1972～1989年の HOME ECONOMICS RESEARCH JOURNAL (76冊) における分析対象論文 5,765本のうち「家政学原論領域」に分類された 739本の中から、家政学論に関する論文を抽出した。それぞれの論文のなかで、家政学の本質や目的、対象、方法などについてどのような記述がみられるかを整理した。記述の内容を年代別に比較考察し、それぞれの時代の特徴をとらえるとともに、家政学を定義するために必要な概念について明らかにした。

【結果】アメリカ家政学の定義に関する諸概念は、各年代において多様な表現によって説明されているが、全体を通して、もっとも抽象化された単純な概念として、家庭、家族、個人、人間などをあげることができる。併せてコミュニティ、消費者なども重要なキーワードとなっている。また、それらと環境との相互作用によるところの生きる営みにおいて、改善、発展・開発、福祉・幸福、健康などの価値が、肉体的(物的)・精神的・社会的・経済的・美的・技術的につくりだされ、効率的に高めることが目的とされている。